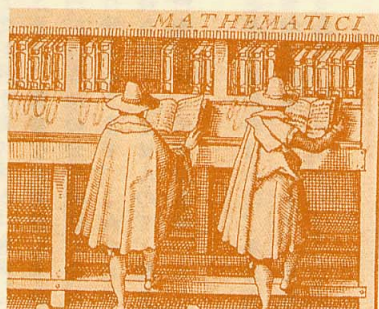


らい 来ぶらり 55

鎖につながれた本

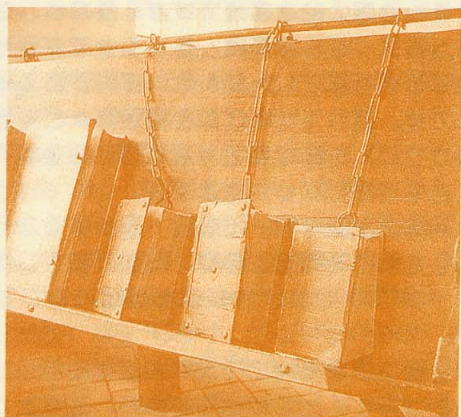
ヨーロッパの図書館では12～17世紀ころに、蔵書を鎖でつないだ時代があった。今でもケンブリッジのヘリフォード大聖堂図書館などで名残を見ることができる。

活版印刷術が普及し始める15世紀後半まで、ヨーロッパの書物は全くの手作りであった。羊や子牛の皮をなめして羊皮紙を作ること、本の転写、製本も人の手で行われた。中世前期では写本の作製はほとんどがキリスト教の修道院で行われ、専門の写字生によって写本が作られた。蔵書数は非常に貧しく、9世紀にポツピオ大修道院は約700冊の蔵書数で同時代のその他のすべての図書館を圧倒した。また中世の終わりころ、当時最大を誇ったアビニヨンの法王たちの蔵書でも約2,000冊でしかなかった。しかし、書物を鎖でつないだのは写本



図書館問題研究会図書館用語委員会編「図書館用語辞典」より

の数が少なく貴重であったことと同時に、利用者が増えたためと考えられている。13世紀以降大学が設立され始め、神学と平行してほかの学問も教授されるようになると書物の需要が増加した。また、羊皮紙に代わって安い紙が利用されるようになり、写字生と並んで写本商人が活躍するようになった。領主・貴族・知識人の間でも本の収集が始まり、本が保管されていた部屋《図書館》は本を読む場所が変わったのである。利用者の増加に伴い、繰り返し利用される本は書見台（図のように立って読んだ）に置かれ、鎖で固定された。蔵書が増えるにしたがい書見台には複数の本がたなぎとめられ、さらに本を並べて置くための書架がこの台に取り付けられた。利用者は読みたい本が並んでいる書架から本を取り出し、その書架の前の書見台で利用した。のちにはこの書架が書見台から切り離され独立し、現在の書架につながっていく。本が鎖から解き放されるのは、写本に代わって印刷術による出版物が出現し、これが図書館蔵書の中心となる16世紀以降のことである。
(洋書係 野村恵子)



ヴィンフリート・レーシュブルク著「ヨーロッパの歴史的図書館」より

史料館の貴重書

編集委員 史料館では、どのようなものを貴重書として扱っていますか？

史料館 とくに貴重書といった扱いはしていません。

編 例えば、どのような資料がありますか？

史 貴重書の扱いはありませんが、特徴のあるものとして本学名誉教授児玉幸多先生寄贈の「児玉文庫」が挙げられます。この文庫は地方史関連を中心とした歴史関係のコレクションで、国内の貴重な市町村史、限定出版された資料集・目録・研究書などが多数みられます。

編 購入はしていますか？

史 近世史を中心に歴史に関する本を購入しています。購入に関しては学生のニーズにも出来るだけこたえようと努めています。歴史関係の本で購入希望のある方は一度ご相談ください。

編 図書以外に貴重な史料を所蔵されているそうですが、ご紹介いただけませんか？

史 陸奥国棚倉藩主阿部家文書、内膳司濱島家文書、武蔵国上名栗村町田家文書など、十七〜十九世紀にかけての大名家文書・公家文書・農村文書など約七万点の

史料を所蔵しています。近年では学習院大学五十年史編纂業務を行っているため、大学史関係の史料も収集中です。

編 実際に見ることはできますか？

史 閲覧室で閲覧できます。ただし、史料の状態などによっては原文書の取り扱いには許可されないこともあります。なお、図書も含めて貸出は一切していません。

編 所蔵史料の展示の企画はありませんか？

史 図書を中心とした展示の企画はありませんが、北二号館一階の史料館展示室では常設展「史料館の活動と所蔵史料」を開催中で、主な所蔵史料を出品しています。毎週火・木曜日の午後には開館していますが、ご希望の方は史料館事務室にお寄りください。それ以外の曜日でも見られます。十二月にはすごろく関係の特別展を企画しています。

編 最後に何か一言…

史 史料館は入りにくいと思われがちですが、館内はどなたでも閲覧・見学できます。貴重な史料も多数所蔵しておりますし、館内には各地の公的機関の発行目録・報告書類や逐次刊行物もあります。これらの半数がまだ大学図書館に登録されていませんので、歴史関係の図書を含めた史料資料をお探しの方は直接いらしてください。

また、前述のとおり通年の展示のほかに、年三回一般向けに史料館講座も無料で開催しています。皆様の参加をお待ちしております。

編 ありがとうございます。

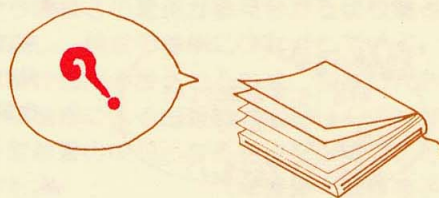
裏の顔 — 洋書の奥付？ のはなし

アメリカで出版された『The European Union』を開いてみよう。まずタイトル・ページには書名、著者、出版者が記されていて、それをめくると、裏に「Printed in the United States of … Copyright 1996 by Westview Press Inc., …」など出版に関する情報が記されている。さらに巻末はどうかというと索引を最後に見返しとなり、発行年月日、定価、著者、発行所などを記したわが国の「奥付」というものが見当たらない。

もう1冊フランスで出版された『La bible de Jérusalem』を開いてみよう。タイトル・ページはほぼ前者同様である。ところが裏には何の印刷もなく、巻末に「Cette quatorzième édition … Édition du Cerf … d'imprimer en mars 1994」と奥付らしきものがある。

はたして洋書の奥付はどうなっているのかということ—1457年にフストとシエー

ファーが刊行した『聖詩篇』に刊本初のギリシャ語でコロフォンと呼ばれる奥付が登場した。これはいつどこでだれがこの本を仕上げたかを巻末に記した書写本の名残で、次第に一般化するが、16世紀初頭にタイトル・ページが整備されるとその機能を吸収してしまう。いま、洋書は奥付のないのが当たり前と言っても、ロシアやフランス、ドイツの本の一部にはまだ奥付があり、その様式はとくに定まっているわけではない。決まっていますと言わんばかりに整然とした奥付を持つわが国の本とのお国柄の違いが、こんなところに現れてくるというのも面白い。（洋書係 工藤晶子）



和古書をあつかって

和古書とは普通、装訂*は袋とじで、中を開いてみると、書写されたものか整版印刷かで、写本と刊本に区別されます。刊本中、版木に彫刻したものを利用した印刷本を整版本と言ひ、室町後期から江戸初期にかけて活字を使用したものを古活字本と言ひます。

古書が新書と区別される時期を一応慶応3年(1867年)をめぐとする説があります。表紙に付された短冊の文字は外題と呼ばれる書名で、正式の書名は本文の最初、すなわち巻頭に書かれたものを採ります。はしがき・あとがきは普通、序文・跋文

と呼ばれ、著者自身あるいは他者による感想や批評が主な内容です。また、内容の説明や著者・編者、出版の経緯などが書かれている個所でもあるので、正確に読みとれなくてはなりません。しかし、くずし字が用いられている場合が多いため、それを読みとるには苦勞が伴います。

これは個人的な感想ですが、最初慣れないうちはくずし字辞典と首つ引きで悪戦苦闘する有り様で、人知れない苦勞があるものです。慣れてくれば和古書目録などを手掛かりに、正確な書名や著者名に到達することも可能になってきます。

刊本の出版年月・出版地・出版者をあらわしたものを刊記と呼び、刊記が独立したページづけになったものを奥付と呼びます。

古書には年や月に干支や和語を使用したものが多く、出版地はもちろん、浪華とか江戸と表記されます。(和書係 橋奥雅子)

*一般には「装丁」を用いている。



山岸徳平著「書誌学序説」より



1. 資料を探すには
 - 書く目的
 - 着想（問題を整理する）
 - テーマのとらえ方
 - テーマの選び方
 - “入り口は狭いほうがよい。”
 - “テーマが決まったら論文は半分できている。”
 - 条件（時間・費用・執筆のレベル）
2. 資料の読み方
 - 参考文献・引用文献
 - 雑誌論文・研究図書
3. 書誌（Bibliography）の使い方
 - 書誌とは個々の文献の著者名・書店・出版事項などのデータを、一定の体系によって配列、編成しリスト化したもの。
 - 目録・書目と共通する。

4. ケース・スタディ

- ① Question 1 外国文献の探し方
- ② Question 2 日本語文献の探し方

文献を探すといっても目的はいろいろに分かれます。レポートや論文を書くための資料集めであっても、どうしても読まなければならない文献を探す場合と、使えないかもしれないが無ければ別のものでも良いといった場合もあります。自分が今何を求めているのか？それはどうして必要なのか？どの程度に入用なのか？資料を迅速に効率よく手に入れるために、これらをきちんとおさえておくと、おもいがけない資料との出会いが待っています。

よく見受けられることですが、雑誌論文であるのに図書と思い込み探せない。あたかも翻訳されて出版されているかのように参考文献に載っているが、作者がたんにタイトルを直訳しただけなので邦文書名では探せない。しかし、資料を探すのに時間や手間がかかっても手に入れば良いのです。探す過程で得た情報や知識の蓄積が、その時は必要なくても、いつか役立つことがあるのです。

そうはいつでも外国文献を探すには、個人では限界があります。自分の大学図書館の蔵書だけでなく、いろいろなデータベースを利用するには図書館員の手助けが必要です。例えば、外国雑誌論文を探すのに今は複数のデータベースがあり、それらを利用することも可能なのです。

探すという目的意識をもって、図書館を積極的に使いこなしてください。

（参考係 甲斐静子）

FukuGAMI
福紙ほろろ
昨日こそ早苗取りしか
いつのまに稲葉そよぎて
秋風の吹く
よみ人しらす『古今集』より

来ぶらり No.55 1996年10月1日発行

発行責任者：森田道也 編集委員：富田正貴 石井博幸
学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1

☎03(3986)0221